人権映画会「聖の青春」を見て

桜満開の下、舗道に倒れこんでいる村山聖。彼を近所の人が見つけ、軽トラに乗せ関西将棋会館へ連れていくシーンから、映画「聖（さとし）の青春」は始まる。

幼い頃にネフローゼという腎臓病を患い、長い病院での闘病生活を余儀無くされた。その間に父親が買ってきてくれた将棋盤が彼の人生を決定づける。怪童と呼ばれることになる棋士、村山聖の誕生の瞬間であった。

村山は将棋を極めるため、14歳で広島から大阪に出て、師匠に付き、研さんを重ね、メキメキと腕を上げていく。そんな時、現れたのが彼の生涯の目標となる羽生善治。彼を倒さんがため、村山は東京へ移り住む。慣れない土地での生活ではあったが、愛嬌のあるルックスと将棋に対する真摯な態度が相まって仲間を増やしてゆく村山。

こんなシーンがあった。同門下の友人が、負ければ奨励会退会という一戦で敗北してしまう。その夜、村山と師匠とその負けてしまった友人と3人で飲みに行くのであるが、帰ろうと店を出たとき、泥酔した村山が一万円札を何枚もビリビリに破ってしまい、その友人に毒づき始め、とうとう殴り合いになってしまう。村山の中に行き場のない怒りや苛立ちがある。

人権映画会の様子

一緒に将棋に励んできた友人を退会という形で失う寂しさ、自分は果たして名人になることができるのか、また、病を抱える自分にその時間があるのかという不安。そのために必要なものは、お金なんかではなく健康な体なのであるが、病身であったからこそ、真剣に将棋と向い合ってきたという複雑な思い。さまざまな感情が爆発してしまったシーンであった。

名人を目指して必死の努力をしている村山であったが、精密検査の結果、ぼうこうがんが見つかってしまう。大手術に耐え、故郷広島に帰っても、将棋への情熱は冷めることはなかった。しかし幼少からネフローゼ、そして癌と病に侵され続けた村山聖は、名人位という夢を前に、もう少しのところで他界してしまう。享年29歳。尊敬し目標として来た羽生善治との対戦成績は六勝七敗だった。

私どもの今年の人権テーマは「生きる」である。人は一度しかない人生をさまざまに生きていく。近代まれな天才将棋士であった村山聖の壮絶な人生。常に死と向き合いながら、将棋という真剣勝負に全身全霊を賭けた凄まじい人生。人はそれぞれの人生を生きていくが、彼のような人生にはただただ脱帽である。

人権機関有田川　則岡隆彦

人権映画会アンケートより

6月17日(日)、清水文化センターで人権映画会「聖の青春」を行いました。参加された皆さまから感想を頂きましたので、一部をご紹介します。

将棋の世界を通して、生きていくということを考えさせられた内容でした。

40代男性

将棋に人生をかけて、全うして、最後まで生き抜いて頑張っている姿に感動しました。

40代女性

将棋のことは分かりませんが、つい「頑張れ！頑張れ！」って、心の中で言っていました。よかったです。

60代女性

どんな状況にあっても今を精いっぱい生きる。見習いたいと改めて感じさせてもらいました。

70代女性

お知らせ

人権特設相談所

8月16日(木)、人権特設相談所を開催します。相談は無料で、秘密は厳守されます。

●場所／清水会館
●時間／13時～16時

■人権に関する問い合わせ
有田川町教育委員会　社会教育課
TEL　52-2111
FAX　32-4827